

## 資料目次

活動当初のピラ	1
地域型仮設住宅の概要	5
支援の会ニュースNO1	8
NO2	12
NO3	14
NO4	18
NO5	20
NO6	24
新聞記事	28

# 阪神大震災で被災された 「障害」児・者への 救援募金にご協力をお願いします

阪神大震災が起こって被災された多くの人たちは、突然にして困難な生活を余儀なくされてきましたが、その中でも常日頃から介護を必要としておられるようなさまざまな障害を負う人たちにとっては一層に厳しい避難生活を続けられています。避難生活に必要な情報も伝えられなくて困られている人たち、いろんな行政への手続きに行きたくても介護者がなく行くことのできない人たち、国や行政の援助もない中で始められた作業所も全壊してしまい仕事を失った人たち、等がおられます。支援の会では、それらの障害を負う人たちへの物資支援や介護者派遣、入浴サービス、京都への一時避難受け入れ、等が続けてきました。これらの支援の活動は今後も継続していく必要に迫られています。被災された障害を負う人たちの生命と生活を守るために、ご支援とご協力をお願いいたします。

## 呼び掛け団体 被災「障害」児・者支援の会

### 賛同団体

愛隣館研修センター・京都市民福祉センター・乙訓の里・乙訓の里親の会・向島あそぼう会  
共同作業所ベテスダの家・きょうとキリスト者夜まわりの会・京都自閉症協会・ほっとハウス  
日本基督教団京都教区障害者問題特設委員会・医療法人大山医院きこえの部屋・アクセス京都  
障害者いこいの家めぐみホーム・誕生日ありがとう運動京都友の会・榎の会・海外教育協力隊  
タンタンおもちゃライブラリー・ペンギンの会

### 連絡先

☎075-612-0364 (めぐみホーム)

〒612 京都市伏見区銀座1丁目360

郵便振替口座 01010-8-20216 被災「障害」児・者支援の会

資料1

資料  
活動当初のビラ  
京都で街頭募金の時配った

活動当初のビラ 避難所や電柱どこにでも貼ってまわった。

# \*被災「障害」児・者支援の会\*

私たち「被災「障害」児・者支援の会」では、阪神大震災で被災された「障害」児・者のための救援活動を行っています。

地域での生活の基盤を確保するために、必要な情報の提供・人的物的支援・あらゆる相談などを行っています。

どうぞお気軽にご連絡下さい。

## ----- 支援活動内容 -----

### ① 緊急避難場所の提供（京都・短期）

被災された「障害」児・者とそのご家族の方々の一時避難を受け入れます。

### ② 入浴サービスの実施

お風呂への送迎・介助いたします。

### ③ 必要な物資の提供

生活用品・医薬品・車イス・福祉器に関する用具など必要とされる物資の提供をいたします。

**※その他、お困りのことがありましたら、相談に応じます。**

現地事務局：神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内

**被災「障害」児・者支援の会**

TEL/FAX 078-856-0700

携帯TEL 030-273-6689

京都事務局：TEL 075-612-0364

# \*被災「障害」児・者支援の会\*

私たち「被災「障害」児・者支援の会」では、被災された「障害」児・者のための支援活動を灘区・東灘区を中心に行なっています。

地域での生活の基盤を確保するために、必要な情報の提供、人的・物的支援、あらゆる相談等を行なっています。他地域からのボランティアの大半が神戸から撤退し、今なお行政が正常に動いていない中、私たちは96年3月末をメドにして要望がでてくる限り、私たちがなし得る力量の限りで支援活動を続けていきます。

どうぞ、お気軽にご連絡下さい。

## — — — — 支援活動内容 — — — —

### ① 入浴サービスの実施

お風呂への送迎・介助いたします。入浴相談もお受けいたします。

### ② ガイドヘルパーの実施

病院、施設等への送り迎え。外出の手助けいたします。

### ③ 訪問活動の実施

一人暮らしの方、話相手を求めている方の訪問・相談をいたします。

### ④ 必要な物資の提供

生活用品、医療品、その他必要とされる物資等を独自のネットワークを通じ出来るかぎり提供いたします。

### ⑤ 緊急避難場所の提供（京都・短期）

被災された「障害」児・者とそのご家族の方々の一時避難を受け入れております。

※ その他、お困りの事がありましたら、ご相談に応じます。

現地事務局：神戸市東灘区御影中町2-3-23 兵庫区クリスチャンセンター内

### 被災「障害」児・者支援の会

TEL/FAX 078-856-0700

携帯TEL 030-273-6689

京都事務局：京都市伏見区銀座一丁目360 めぐみホーム内

TEL 075-612-0364

活動当初のビラ 避難所や電柱どこにでも貼ってまわった。

# せいしん いりょう エス オー エス 精神医療 SOS



## ひとりでしんどさを かかえこまないで!

大阪府民の  
支那の会  
030-272-3669(大阪)  
兵庫県民の会  
078-421-3600(神戸)  
おくみずみ(大阪)

◎ 例えば...自分で選んで電話相談してもらえるところとして...

- ・兵庫県立精神保健センター 078(511)6581 (8:45~5:30)  
0120(78)4976 (9:30~3:30)
- ・神戸市児童相談所 078(382)2525
- ・大阪府精神障害者権利センター 06(313)0056 (1時~6時)
- ・大精連(精神科体験者のグループ) 06(973)1287  
(火・木の2~4時)

### ◎ 開いています。あなたの街の診療所 (開いているクリニックの掲載範囲)

※各掲載所は代表番号です。必ず「精神科救護所スタッフを呼んでください」とおっしゃってください。

※新患受付できない、お薬のみの診療所もあります。また、開いている曜日・時間をご確認いただく意味でも、各診療所は、まず電話でお知らせ下さい。(各診療所は「電話相談窓口」ではありません。)

▼**北区** 東區保健所076(841)4181 うらべ医院(851)1019  
 佐々木医院(453)5700 中崎神経科クリニック(854)1580 石川川診療所(851)2281  
 浅野神経内科クリニック(854)5550 久保診療所(451)0471  
 ▼**北区** 藤保館所078(871)5101 (精神科救護所のスタッフを呼んで下さい。)  
 福岡医院(871)0260 谷本神経クリニック(881)8729 智田医院(811)8888

▼**他区** 中央区、北区、兵庫区、長田区、須磨区、垂水区、西区、芦屋市、西宮市、他  
 中央保健所078(232)4411 兵庫保健所078(611)2111 長田保健所078(679)2311 須磨保健所078(731)4841  
 神戸神経クリニック078(392)3950 赤神神経クリニック(393)9281 松川神経科診療所(281)6018 高田クリニック(221)8806  
 松本医院(221)8188 福崎神経科診療所(841)1746 松本医院(221)8188 松本神経内科病院(222)1621 ~8  
 明石神経科診療所(231)2470 福島神経科診療所(242)7226 (以上、中央区)  
 白井医院078(691)8422 福医院(693)7089 (北区)  
 794 神経クリニック(新阪区 ×)078(676)0993 神風神経クリニック(新阪区 ×)576-7035 田浦神経内科診療所576-2127  
 神経内科クリニック(投函時)576-2717 (兵庫区)  
 馬場神経内科777-8826 山本医院021-8700 (兵田区)  
 石川神経科診療所078(734)5916 松崎神経科内科793-3711 若松医院732-1646 (須磨区)  
 加川神経内科クリニック707-6889 内田クリニック706-1070 (垂水区)  
 東山医院927-8001 西村神経内科901-5585(西区) 石田医院0797(73)1277(宝塚市)  
 寺内神経科0797(81)0888 大崎クリニック0797(81)4556 神経科野洲医院0797(32)0272(芦屋市)  
 岩沢神経科クリニック0798(64)5131 大西神経内科医院0788(22)1688 保坂診療所0788(34)7000 新川医院40-0261  
 保坂 川診療所0798(23)7011 吹加クリニック23-6702 (西宮市)  
 上枝診療所08(412)2065 神山診療所08(412)1865 川崎西院06(429)0124 小林医院06(429)7627

## 高齢者・障害者向地域型仮設住宅 (応急仮設住宅)

### 入居申込のごあんない

#### お知らせ

今回の住宅は、このたびの震災により被災され、避難所等での生活が困難と認められる高齢者・障害者等及びその家族が対象です。

今回の地域型仮設住宅は、被災者用一時使用住宅と同じ応急仮設住宅ですが、建物は従前のものとは異なり、2階建て、風呂、トイレ、流し台は共同で利用する寮形式の集合住宅です。

#### 1 目的

避難所等での生活が困難と認められる高齢者・障害者等並びにその家族に対し、自らの住宅を確保できるまでの間、被災者用住宅を暫定的にお貸しするものです。

#### 2 入居対象者

身体的・精神的に虚弱な状態にある等の理由により避難所等での生活が困難と認められる下記に該当する高齢者、障害者等及びその家族（単身世帯可）。

ア 高齢者 65歳以上の方

イ 障害者 ・身体障害者：身障手帳1・2・3・4級所持者

・知的障害者：療育手帳所持者

・精神障害者：障害年金1・2級受給者並びに「障害の状況に関する証明書」の交付者

ウ 上記ア、イに準じる者

慢性疾患等健康上の理由で避難所生活が困難な方

#### 3 入居戸数 862室〔全戸応急仮設住宅〕

(4.5畳もしくは6畳のどちらか一室)

戸数については個別の事情により変動することがあります。

なお、いずれの住宅も駐車場の確保はできません。

#### 4 使用できる期間

原則として入居後6ヵ月以内。ただし、その後に6ヵ月を限度に更新できます。

●住宅概要

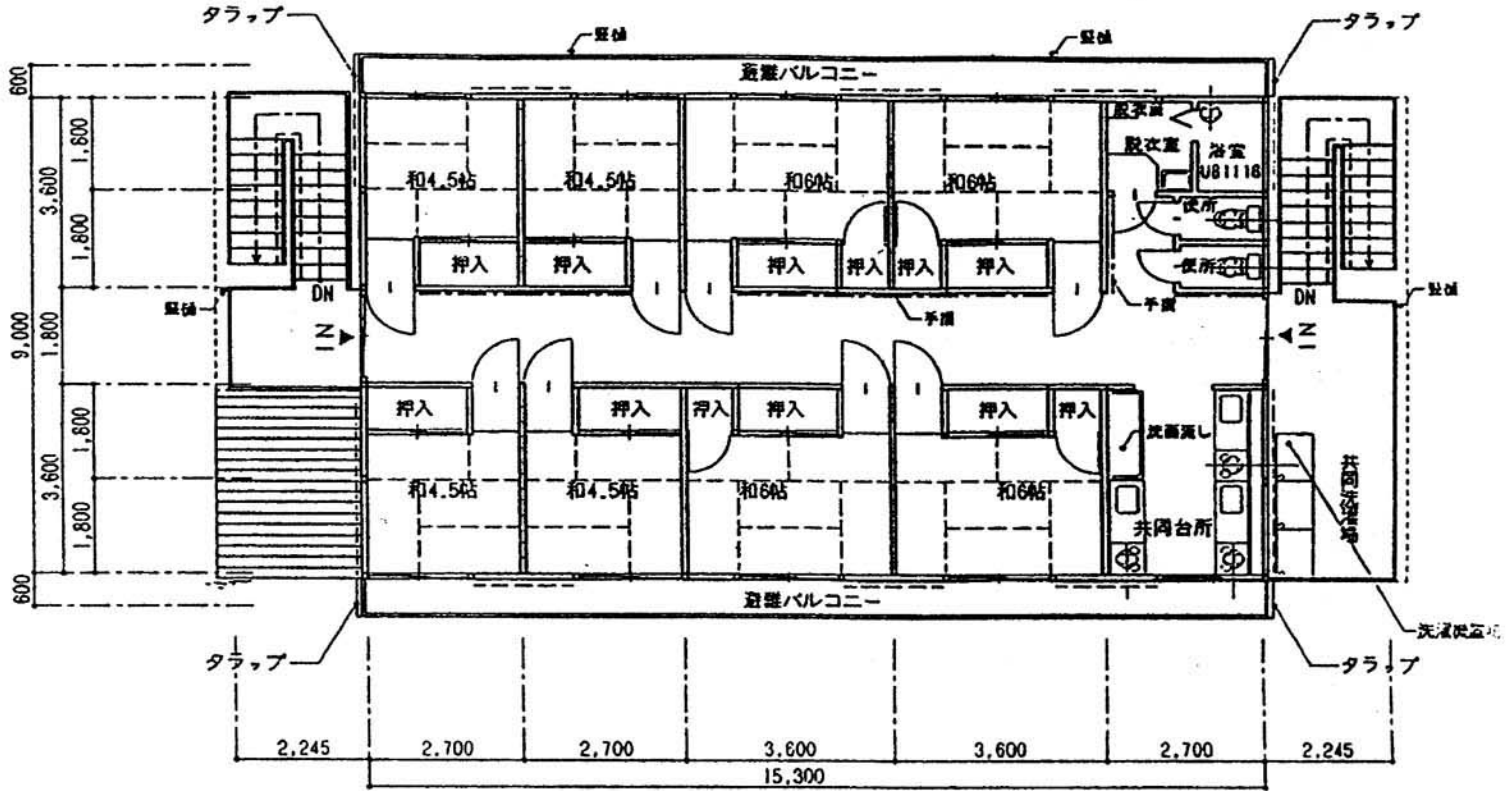
プレハブ2階建 寮形式

1棟あたりの室数等（標準タイプの例）

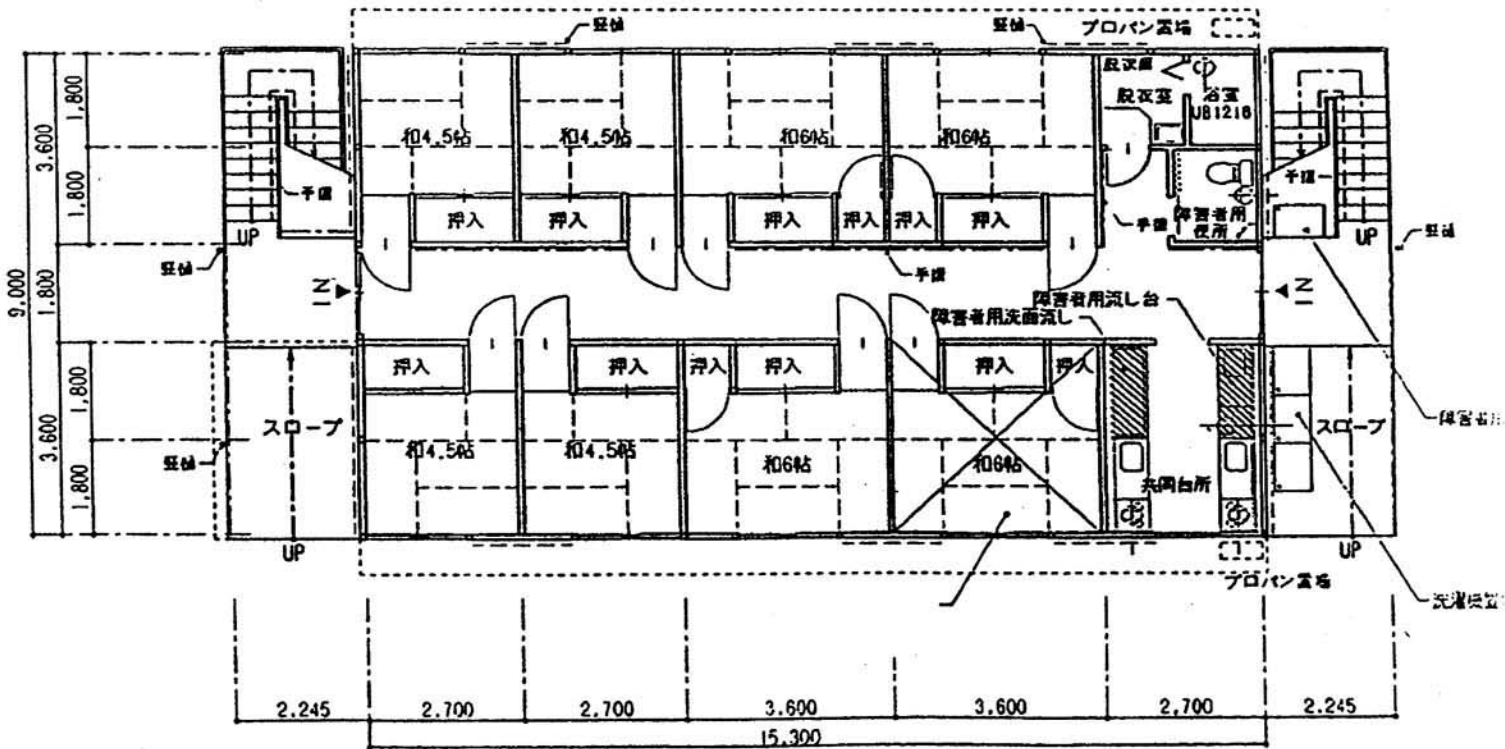
畳数	室数	入居人数等	
6畳	8	原則2人入居、介護状況に応じて3人以上可	
4.5畳	8	原則単身入居、2人可	
計	16室	概ね50室に1室の割合で相談コーナーを設置	
設 備			
浴室	2	身体障害者対応：1階に1カ所	共同使用
トイレ	3	車イス対応：1階に1カ所	
流し台	6	車イス対応：1階に1カ所	

※部屋等の緊急ブザー、浴室・廊下の手すり等設備改善しています。  
浴室・トイレ・流し台は共用です。入居者で管理していただきます。

●住宅平面図 (標準タイプの例)



2階平面図



1階平面図



# 支援の会 ニュース No.1

被災「障害」児・者支援の会  
京都市伏見区銀座1丁目360  
めぐみホーム内  
☎ & FAX  
075-612-0364

## ～被災「障害」児・者支援の会とは～

“阪神大震災で被災された方々のうち、「障害」をもった人は、どのようにしておられるのだろうか。” 情報が全く入ってこないなかで、何か出来ることはないか。「障害」をもつ人の、特に地域で生活しようとされていた人が、必要としていることがあるなら、そいを支援したい。— という思いで、この会は始まりました。

現在、賛同団体 16 団体（募金のお願いや各団体の名がでています）

震災の4日後 1/20にもたいた初回事務局会ぎでは

◎ 募金活動をする

◎ 人材派遣をする

◎ 京都に避難してきた方の一時受け入れ

の方針をもちました。

## 被災地情報

- ・ 障害者問題を考える兵庫県連絡会議
  - ・ 阪神大震災被災弱者救援センター
- ） ほかから

ほぼ、毎日のように、FAXで情報が入ってきます。  
FAXの量は、B4用-70打ち 2~3枚で、実に様々の  
状況が伝わってきます。

大阪には  
『障害者救援本部』という  
のが設置されたようです。

六甲サービスセンターでは  
利用者の多くが  
大阪・早川記念会館に移動  
生活介助などうけついている様子。

各避難所にまだおられる  
精神障害者の状況など気になります。

# 街頭募金をしました。

- 1月21日(土) 5:00~6:30 大手筋商店街 参加者 21名  
 " " 四条大宮駅前 " 10名  
 22日(日) 5:00~6:30 大手筋商店街 23名  
 28日(土) 4時 大手筋商店街 参加者 35名  
 28日(土) 3時 イズミヤ長岡京店 参加者 18名  
 29日(日) 2時 大手筋商店街 参加者 37名  
 2日(木) 5時30分 四条大宮 参加者 10名  
 5日(日) 4時30分 四条河原町 参加者 約70名

2/6現在  
 募金額  
 ¥3,516,135-  
 内訳  
 街頭募金  
 ¥1,103,920-  
 個人団体より  
 ¥2,412,215-

## 会計報告 [ご協力ありがとうございました]

### ◆物資支援

豊能障害者労働センターへ

- 28日 タオル・下着をダンボール2箱を郵送  
 29日 トイレットペーパー・ティッシュ・衣類等  
 ダンボール16箱を届ける (平田・川上)

すばる舎へ

1日すばる舎の1000人炊き出しのための物資が不足しているので支援して欲しいとの緊急情報があり、多芸(めぐみホーム)と糸井さん(錦林教会)が以下の物資をすばる舎へ届けた。

- 牛肉20kg、鶏肉30kg、きゅうり5ケース、キャベツ5ケース  
 白菜5ケース、トマト9ケース、人参3ケース、玉葱5ケース、みりん20ℓ、濃口醤油18ℓ缶、薄口醤油20ℓ缶、味噌20kg、手袋1ケース

### ◆人材支援

すばる舎へ

- 2/1~8 3名 } が  
 12~9 1名 } 支援の会より  
 16~12 3名 } 派遣

### ◆一時避難

1/30より被災した重度障害者・上田啓悟さんが京都へ来られています。現在事務局を牛伝の下におられます。(詳しくは新聞コピーを)

→ 2/1より支援に行ってきた川上さんが、現地の状況を報告し下されました。(次のページ) すばる舎は西宮にある。共同作業所(3ヶ所)グループホーム(2ヶ所)に約10名程の障害者が生活しておられます。

# すばる舎・炊き出しボランティア

## 報告

(2月1～4日)参加 / 川上 揚

すばる舎では西宮・尼崎での炊き出し所での炊き出しを行っています。予定している火・木・土の三日間、晩ごはんの時に  
行っています。この三日には、日帰りのボランティアの人がたくさん  
押し寄せてこられます。実際のところ、何をやっていいのかわから  
なくて立ちつくしている人も少なくないので、「こゝは人手が余  
りな所」と判断される方もいると思います。しかし、すばる舎の  
方針では、とにかく何か手伝いたい、と志してら、いる方に  
は、みんなに来てもらい、被災地を自分の目で見て、炊き出  
しの様子を見て、そして自身でその後への参加を考えたもら  
う、ということなのです。

西宮では、まだ木道が復旧していませんが、  
尼崎では木道やガスもようやく復旧してきました。でも  
お家では、水は出るが、水もぬかぬか、家の中が水  
いたしに、  
まじ、という話も聞きました。体育館で避難  
されている方は「神戸、芦屋、西宮などに較べて、尼崎はまじ  
まし」という理由から、希望を出すのはせめて、という感覚を  
示すようでした。しかし、私が体育館で電話をしていた時、  
余震があり、中にはおられた方は、うたえ逃がたそうとする人も  
辺りまわす子ともいました。実際は体育館の外にいた人の中には  
気付かない人もいたくらい小さな余震でしたが、それくらい、不安  
と恐怖にさいなまれ、敏感になっておられると見ました。テレビ等  
では、余震には慣れた、と伝えられていましたが、いつ来るか、  
わからない、地震発生後、長い期間が経過している中で、疲れ  
も相当なものでしょう。

市の方から救援物資が定期的におくられてくるので、  
死活問題としての炊き出しではありませんが、この先、1ヶ月、2ヶ月  
と、毎日冷たい弁当を食べなければならぬ中での「おなかがい物を  
食べたい」という気持ちでやっています。市の対策本部の方  
とも出来るだけ物資を無償にするべく、現場で活動して  
いるボランティアの立場から、相方の連けいをよくしていくべきで  
しょう。ボランティアが余りな状況があれば、周辺のまちど  
の炊き出しもしない避難所へも送り出していくこともできるか  
もしれません。情報は、一日ごとに変わっていると感じた体感でした。



# 被災障害者の要望聞き取りへ

## 「支援の会」週内にも活動

### 避難所巡り 手助け探る

阪神大震災後、京都市内の共同作業所など十六団  
体で結成した「被災『障害』児・者支援の会」が、  
兵庫県内の各避難所で障害者の要望を聞いて回る活  
動を今週中にも始める。現在も西宮市の福祉施設で  
ボランティア四人が手伝い、会員宅に被災者を受け  
入れているが、「障害者には『いらっしやい』では  
なく、積極的に声を掛けていくかわり方こそが必  
要」と協力を呼びかけている。

重度の障害者が通う神戸  
市東灘区の六甲ティケアセ  
ンター。建物の被害はなか  
ったものの、介護者の避  
難所に使われており、被災

ないのでわざわざ同センタ  
ーに行ったり、人目を気に  
しながらおしめを換えたり  
と不自由な生活を余儀なく  
されている。

京都市伏見区の障害者専  
用市営住宅で一人暮らしの  
柏木正行さん（四九）は先月三  
十日、同じ車いす生活を送  
る神戸市兵庫区の牧師を迎  
え入れた。

牧師は地震後十日間、小  
学校の避難所で過ごした  
が、被災者で込み合ってい  
るため、一度も車いすから  
降りられなかった。六畳の  
和室を用意されたが、他の  
四家族と同居の窮屈さを強  
いられた。食料の配給の長  
い列にも加われず、とうと  
う柏木さんを頼ってきた。  
支援の会代表で「障害者  
いこいの家めぐみホーム」  
所長の多美正之さん（五二）は  
「被災した障害者は、ツイ

レなどの専用設備が整って  
いることを確認しないと県  
外に移れない人はかなりな  
に、どこに何人いるのか実  
態が不明。私たちの足で避  
難所を二か所ずつ『何かす  
ることは』と尋ねて歩きだ  
い」と話す。

同会では五日も京都市四  
条河原町で八回目の募金活  
動を実施。ボランティアや  
被災者の受け入れ先を求め  
ている。問い合わせは同ホ  
ーム（☎075・612・  
0364）へ。

読売新聞

2/6 (月)

資料11



被災「障害」児・者支援の会

事務局 京都市伏見区銀座1丁目360  
めぐみホーム内  
Tel & FAX 075-612-0364

このニュースレターでは、被災「障害」児・者支援の会に 御支援・御協力下さった方々、興味をもって下さる方に、会の活動の報告を中心に お伝えしています。

先4回事務局会誌では(2/9)ここからの活動内容について 話し合われました。

この間、FAXにて様々な情報を送って下さっています。「障害者問題を考える兵庫県連絡会誌(障問連)」では、2/5被災後初めて関係者が集まり、被災「障害」者の家庭訪問・生活介助などについて話された模様。

報告 ①

② ほぼ毎日、地域にむけて1000食の炊き出しをされている。西宮のすばる舎では、直接炊き出しをするボランティア以外に、コーディネートする役割などの人的支援(一週間以上)が必要とされている。

③ 六甲サービスセンター(東灘区)では、業務超多忙のなか、関係者の家庭訪問を少しずつされている。

④ 大阪精神医療人権センターでは、医療相談を受け付ける旨の「SOSビラ」を各避難所に配りはじめている。

そこで 次のことを 計画しました。

御好意により 一層をお借りします。

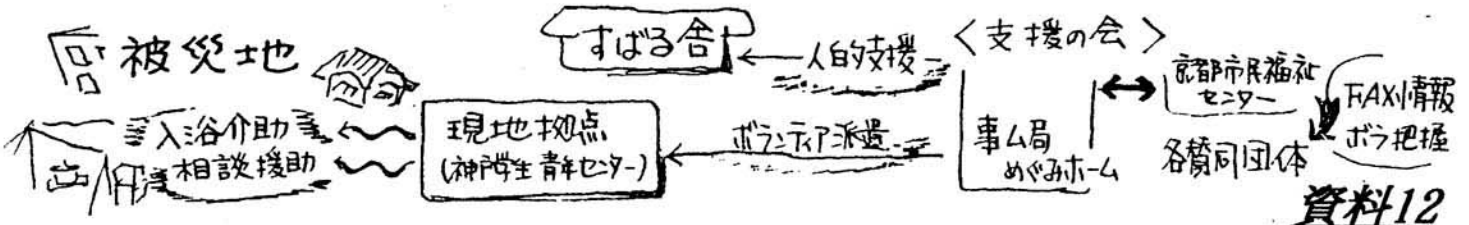
被災地にある神戸学生青年センターを派遣ボランティアの拠点とし、

主に灘区・東灘区を対象にして、避難所等を訪問し、入浴介助などの援助をする。

すばる舎に、引き続き人的支援。(一週間単位)

事務局を中心に情報提供、街頭募金の継続。

これには六甲サービスセンターやニューカリア会・高瀬地区連絡会と、また、後から奈良・たんぽぽの家が、主に中央区で支援活動されていることがわかりました。



現地での  
活動報告

2/11~16)  
ばる舎には  
11日まで5名  
12日以降  
2名が  
支援に  
行きます。

日付	活動内容	参加人数
2/11	現地拠点設営(神戸学生青年センター内)	3名
2/12	「被災障害者・関係者復活をめざす対策会議」参加 氏:神戸YMCA	2名
2/13	六甲デイケア・青陽東養護訪問、物資搬入 避難所:灘区5カ所 炊き出し支援(八幡保育所)	8名
2/14	東灘・灘区福祉事務所・神戸YWCA訪問 避難所:灘区14カ所、東灘区9カ所 個別相談1件	8名
2/15	精神医療SOSピラ配布開始 中央区:神戸YMCA 兵庫区:ちびくろ保育園 長田区:大村グループ 灘・東灘区:神大教区ん隊 YWCAにてピラ配布(1,000枚) ニューカトレア会高瀬氏事務局入り 市立更正センター(大久保)訪問 神戸新聞取材 避難所:灘区1カ所、東灘区14カ所 個別相談5件	12名
2/16	入浴送迎1件(知的「障害」者家族) 兵庫教区事務所訪問-協力関係確認 避難所:灘区10カ所、東灘区10カ所 個別相談16件(継続4件)	10名

『こえ』 by S-K

2月11日から15日まで神戸学生青年センターで取組みをし、支援の会の現地での活動の手伝いをさせてもらいました。初めは現地の情報収集やピラはり・くばりがいそがしくしていましたが、毎日どんどん状況が変わって帰って来てまだ2日ほどで、状況がわからなくなってきました。よく言えば活動は順調に進んでいるということでしょう。みんな仲良くがんばってます。私も早くもどりたいです。

**街頭募金をします。**

2月19日(日) 16:00 ~ 18:00

PM 3:00 ~ 6:00

四條河原町高島屋前

2・17現在

街頭募金合計	1,103,920円
その他の募金合計	4,110,606円
	5,214,526円

被災「障害」児・者支援の会

愛隣館研修センター・京都市民福祉センター・乙訓の里・乙訓の里親の会・向島あそぼう会  
共同作業所ベテスタの家・きょうとキリスト者夜まわりの会・京都自閉症協会・ほっとハウス  
日本基督教団京都教区障害者問題特設委員会・医療法人大山医院きこえの部屋・アクセス京都  
障害者いこいの家めぐみホーム・誕生日ありがとう運動京都友の会・榎の会・海外教育協力隊

# 支援の会たより

(毎回、名前が変わってスママセン。)

被災「障害」児者支援の会

事務局・京都市伏見区銀座1丁目360

めぐみホーム内 612-0364

阪神大震災から2ヶ月。被災地の「障害」者は…。

私達、支援の会の派遣ボランティアは…。

## 〈支援の会派遣ボランティア人数〉

	2月							
	21(火)	22(水)	23(木)	24(金)	25(土)	26(日)	27(月)	28(火)
神戸学生青年センターでの活動	13名	14	14	12	10	3	14	14
すばる舎への支援	3名	6	5	5	5	3	2	2
事務局お手伝い	5名	1	2	2	1			2

3月

1(木)	2(金)	3(土)	4(日)	5(月)	6(火)	7(水)	8(木)	9(金)	10(土)
17	16	14	2	1	19	20	20	20	14
3	3	3	2	2	4	4	4	6	6
3	3	2	1			3	1	1	2

## すばる舎

すばる舎は、西宮市を中心に「障害」者が地域で生活することを旨として、数ヶ所の共同作業所とグループホームをつつておられます。

今回の地震で、作業所にも被災がありました。現在、地域の被災された方々に、ほぼ毎日、1000食の炊き出しをされています。

私達は、すばる舎に長期(一週間以上、1ヶ月単位)でボランティアを送り、この活動を支援しています。

### ◆ すばる舎のボランティアの様子

すばる舎で働いておられた堤さん、岡本さんが一時帰ってこられました。すばる舎の方はボランティアも多くて活動は活発に展開されているそうです。泊り込みの人も30～40名位おられるようです。ですから自分自身が出来たことを積極的に関わっていかないと、とまどいの内に時間が過ぎて行くというようです。そういう状態だから2～3日の泊り込みでは慣れた所で帰ってくるということになり、せめて一週間は泊り込むことが必要とのことでした。他のボランティアの仲間とは大変親しくなって人間関係も広がり、帰ってきて、又すぐ戻りたくなり、6日から堤さんも岡本さんも再びすばる舎へ行かれるということでした。このすばる舎のボランティアの活動を指揮されているのは、代表の西さんですが、その一番近くで総括責任者として活躍されているのが、支援の会よりいち早く送り出した(2月1日より)川田さんであるということでした。もう一人の杉山さんは吹田にあります、すばる舎のワークショップアポロで知的障害の人たちと働いておられるということでした。

支援の会では、同センターの一室をお借りして、避難所などを訪問し、「障害」をもった方からお話を聞き、独自に相談に応じています。

◆神戸学生青年センターでの取り組みについて

灘区・東灘区の避難場所はほぼ八割回った。さまざまなケースが出てきているが、入浴サービスを希望される人には車で送迎して応えている。愛生園よりリフト付きバスを借りて、上田さんが回られるのに使っている。27日より京都の運転ボランティア友の会より一台リフト付きバスを借ります。運転手が足りないので、京都ボランティア協会と阪神大震災支援センター（宇治）に募ってもらう。神戸の新聞にも「運転手付き移動入浴車募集」の依頼をする。えんびつの家は週二回、個人的に要望にも応えてガイドヘルパーを行なっている。現地でボランティアを希望されてきた石谷ゆりさん、金子まことさんも活躍されている。

〈活動日誌より〉

授産施設です。通所の援助をしています。

3/8	もとやま園送迎3件、入浴サービス3件、各避難所回り 岩屋ワークセンター送迎3件(1件は松の木会鈴木氏) 日本経済新聞取材、NGO連絡会議アンケート依頼
3/9	もとやま園送迎3件、入浴サービス4件、各避難所回り 岩屋ワークセンター送迎3件(鈴木氏、大阪教区梶井氏) 灘区保健所、東灘区保健所へ個別ケース相談 三浦あすかさん松の木会の作業所へ通所すること決定
3/10	もとやま園送迎3件、入浴サービス4件、各避難所回り 岩屋ワークセンター送迎3件(鈴木氏・梶井氏) 仮設鍵を取りに行く 灘区ボランティアの会来館

実際に現地で「障害」をもった人に出会うと本当に様々なニーズをもっておられます。すぐに解決できることを除いて、いづれは地元の行政や関係団体に受けとめてもらうなければならぬのですが、現時点ではその体制も不十分なようです。そこで支援の会では、3月以降も継続してこの活動をする事になりました。



裏面 派遣ボランティア2名の感想文



## 活動報告会のお知らせ

支援の会では、これまでの中間報告をみなさんにしたいと思っています。現地での活動の様子、学生ボランティアの貴重な体験など、どなたでもぜひお越し下さい。

3月26日 PM 3:00~  
5:00

ばしょ 愛隣館研修センター  
(近鉄向島駅より徒歩10分・向島ニュータウン5街区)



神戸学生青年センターで2月の終りまで働いて下さった。

の活動に

北海道・バツるの家の藤原さんの文章です。

被災「障害」児・者支援の会（現地拠点）は事務局をはじめ、様々なボランティアによって構成されています。

自分自身被災された自立「障害」者の方、家庭崩壊寸前にもかかわらず気にせず手伝ってくださる主婦、仕事を休んで来られる方、良きムードメーカーである大学生の皆さん、怪しいトランプ手品師……。

一見、何の共通性をもたない人達だが、ひとたび現地に入り一緒に活動していくと、なぜかはじめて会ったとは思えない、そんな気持ちになってきます。

支援活動を通じて、いろいろな被災「障害」児・者とその家族の方々との出会いがあります。そして、「障害」という「弱さ」にはたいへんな力があり、「障害」者と関わることによって私たち支援の会が創られ、まとめられ、和らげられ、活かされている事に気づきました。私たちボランティアは被災された方々を支援していると思われていますが、実際は被災された方々に支えられているのだと思います。

支援の会としては現地での長期的な関わりを続けていかれる事と思いますが、今後、地域の方々にお返ししていくときにも、この関わりと共にお返し出来ればと思います。

藤原 かり

資料16

すばる舎に行かれた杉山さんの文章です。

私は今回、去る十九日まで一週間、すばる舎の活動にて、段上西小学校での避難所状況調査と炊きだし指示を中心に、さまざまな仕事をさせていただきました。鍋物の調理や洗い物は勿論のこと、物資の運搬や障害者の方の入浴介助までさせていただきました。これらの活動は、私にボランティアに対する認識を変えさせてくれたとともに、自身の普段の性格や自分自身を取り巻く環境を深く冷静に見つめ直させてくれました。私はこれまで、ボランティアについて「困っている方に世話をし、相手の方と喜びを分かち合う特別なもの」という感慨を持っておりました。しかし今回の参加で、ボランティアとは、「普通の一般の生活が出来ない人に対する、ごく当たり前の、そして人間として当然の思い遣り」であると考えるようになりました。また、世話をする被災者の方に責任を持った対応で接することで、自分自身の活動の問題点を反省出来、そのことが自分自身を冷静に見つめ直すことにつながりました。

「惜けは人のためならず」という諺がありますが、この諺は、ボランティアの基本理念を明確に一言で表現した言葉ではないでしょうか。ボランティアは、困っている方に世話をし、世話の喜びを分かち合うだけではなく、活動により自分自身も学ぶ部分が多いという人間的成長の意味においても、人間社会の基本的でかつ理想的な活動であると考えるのではないのでしょうか。私は今回の一週間で、このことをつくづく思いました。

# 支援の会たより

No.4 1995.6.24発行

被災「障害」児・者支援の会  
事務局・京都市伏見銀座1丁目360  
めぐみホーム内 612-0314

被災「障害」児・者支援の会の活動に御理解・御協力をいただきました皆様へ。

私達は現在も神戸市灘区・東灘区を中心に現地ボランティアが継続して活動を続けています。大震災により、地域で生活することが困難になった「障害」をもつ方々のニーズも長期化しています。しかし「このまま支援活動を打ち切るわけにはいかない。」という結論に至ったのが4月。それ以来、活動の現地拠点も移転し、専従者(1名)をたて、毎週月～金曜日を活動日として、訪問・相談、送迎、入浴などを行っています。

## 新しい現地拠点は

兵庫教区クリスチャンセンター

兵庫教区事務所倉庫・和室をお貸しいただけることになりました。  
JR住吉駅から徒歩10分。

これまで、現地ボランティアの宿泊・諸連絡の拠点として、

- ・神戸学生青年センター (2月10日)
  - ・雲内教会 (4月10日)
- をお借りしていました。  
ありがとうございました。

## 神戸での活動の状況を矢崎さんにまとめられました。

被災障害児・者支援の会も、神戸学生青年センターでの2、3月の頃と比べ、現地ボランティアの人間が少なくなりました。とくに4月から大学が始まるということもあり泊まり込みで長期で関わることのできる人間が少なくなりました。今回の震災で多くのボランティアが被災地にきましたが、学生の力がいかに大きかったかが4月以降の状況で明らかにされました。一方で未だ公的な力が及ばずボランティアの力が必要な現状が残されているのも事実です。

震災から4ヶ月半が過ぎたいま、被災者の要望、意識が変わっていくに従い私たち現地ボランティアの活動の内容もかなり変わってきました。当初の働きは、

一つ一つの避難所をまわり、数多くの被災者が厳しい生活をしていることを把握することでした。電気・ガス・水道が復旧しない中、障害の有無にかかわらず皆がパニックだった時期と比べ、現在は従来ハンディを持つ者が更に厳しい生活になったことが浮き彫りにされてきています。それは行政の福祉施策、とくに地域福祉がいかにお粗末であるかが震災によってはっきりと目に見える形であられたといえます。私たちが生活するとき、共同体というものが必要不可欠な存在としてある中で、高齢者や障害児・者が果たしてその中にうまく入っていたのだろうか、また入れない状況を健常者が作っていたのではということが、今の状況を物語っています。震災後、自分の行き場をなくした人達が順番待ちをして次々と入所施設へ入っていく。また、未だ数回しか外出していない人、通所施設などに通えない人は送迎・ヘルパーがいなければすぐ入所といった形を勧められてしまう。だれにとっても優しい人間共同体、地域福祉の確立といったことをみんなで考え創っていく手助けが現在私たちの最大の働きになってきています。

現在支援の会、現地で働く人間も神戸学生青年センター内、雲内教会内の現地事務所での活動はたった2ヶ月づつなのにとっても愛着があり次の場所に移るのは残念です。だから今までずっとそこで生活していた人達が遠くの仮設に行きたがらず、近くの厳しい倍率の仮設に申し込むのは、当然のこのように思われます。そのため未だ避難所、テントで生活されている人達が数多くおられます。また仮設で生活しその状況になかなか馴染めない人達が数多くおられます。私たちはどこへ移ろうとどこの場においてもできる範囲内で支援活動を続けていきます。

矢崎さんは4月より支援の会の専従者として現地ボランティアのコーディネート、京都の事務局との絡みとして下つきます。  
連

#### ◆会計報告

##### <収入の部>

街頭募金合計	1, 544, 305円
その他の募金合計	11, 309, 575円
	<u>12, 853, 880円</u>

##### <支出の部>

物資支援	430, 818円
団体支援	830, 000円
人件費	240, 000円
事務・交通・通信・活動費	3, 705, 393円
	<u>5, 206, 211円</u>
現在高(6月2日)	<u>¥7, 647, 669円</u>

# 支援の会

被災「障」見者支援の会

たより No.5.

あの震災から、もうすぐ1年に近づいてしまっています。被災地の状況はどのような感じでしょうか。クリスマスもむかえておられるでしょうか。

私たち「支援の会」では、継続して現地の活動を続けてきましたから、御報告が下された皆様には、その様子の御報告が遅れてしまい、お詫び申し上げます。今回は神戸市灘区東灘区にて支援活動をしていきます。現地スタッフが日頃の様子をお伝えいたします。

ベテスタの家 中西

## 回 今の神戸の現状 回



早いもので地震後11か月近く経過してしまいました。と木でも尚、未だ仮設住宅にすら入れない人は数多くいます。仮設での生活も、次から次へと問題が出てきて絶えることがありましょ。例えば仮設住宅の浴槽などは狭い、ヘリが高いとの理由で入浴することが出来ません。また、隣の住人が薄くプライベートを守ることが出来ません。隣の住人と生活のリズムが合わない。病院へ行くにいけない。周辺の地理がまったくわからず、道ががたがたで車椅子を押す事が出来ません。

このような状況で、一番求められているのは、やはり恒久的な住宅です。兵庫県は今から2年程のメドで4万戸程度の公営住宅を建設する予定ですが、しかし、の中で自分が住むための条件にあつた家がどれだけ出来るかと考えるなら、今までの行政がしてきたことを思うと不安要素がかなりあります。第1回目の募集は空き家 6000戸に対して約3倍の募集があったようですが、ひとつの場所にかかり偏ったものでした。自分が被災した近くの場所に集中するのは仕方ないことですが、これは、仮設の募集にしても同じこと。早く学校での避難所を解消したいと考える行政が、まだ出来ない理由と同じこと。早くに行ってしまったら、今までの生活を1からスタートしなくてはならない為です。周りの人間関係、通勤、学校、病院、その他様々なことをやり直し、考えなければなりません。また、実際に住むことが出来ることもあやうく、行政に聞いたところ、車椅子住宅は、1%に満たないとのこと。

神戸新空港建設の構想は着々と進んでいるようですが、実際のところ今の神戸に何か必要なのか、被災者の声に対し、もう少し真剣に耳を傾けてもらいたいと願っています。

現地スタッフ 矢崎



=3 =3



=3 =3



資料20

🌸 ボランティアのみんなの毎日 🌸

朝一番に起きるのは、やはりお父さんだ、と 😊 最年長。ゆ、くりのんびりと朝食を摂っている。みんなとはおがまい返しに朝、7時から鳴る電話。痴呆のおじいちゃんからの電話だよ。この頃、のこのこ起きおびめおねは、この電話で目覚めバツアリ。おしゃべりの気には存年頃(?)とは思えぬような格好で車に乗っていき、仮設へ……。到着しておるとおじいちゃんが「昨日もらった目薬がもうない、取り直してね……」と泣きそうなお顔で立っていました。おがましい? 確かに目薬は昨日一緒に取って行ったはず。よくよく見ると目薬はまけてしまった、と入りこいてます。うん、何のことはない「ふん」を付けておき目薬をぶちまけたおじいちゃんでした。とまあおがまいは一件落着。この頃事務所でコソコソと音がして、7:30頃に向かいの部屋で仕事をしているかのように真面目な顔。この間も様々な理由から病院送迎、入浴介助。依頼が右へ左へ飛び交っていきまふ。中には「神戸○○○さんですか?」という間違電話も……。一番早起き、最年長は着々とマイペースで活動をこなして、病院送迎から仮設訪問まで。常にマイペース。午後にはお風呂、入浴準備、送迎、介助、みんなを連れてお約束の場所へ飛んでいきまふ。ときにはお約束の時間が食い違ってしまうと、早く着きお風呂。その逆も……。震災後、入浴係に全くなりお父さん。お風呂に入れてほしい」との娘さんからの依頼。お父さんと一緒に男性ボウが入浴。洗って、洗って……。夕刻が真黒。閉じこめられ震災前からあまり入浴が好きではなかったらしく、お風呂に入るのも久し振りに。(久し振りにというのはどのくらいの期間も指すのかはあえて聞かずに済ませたい。) そのお父さんも何回か入浴するうちに「今度は17お風呂に入れておくれ。ほろほろに気持ちいいのよ」笑顔でニコリ。😊

淋しい屋のおぼあちゃん。仮設にひとり暮らし。震災でつぶれた家の下敷きになってみんなを取り出したお父さん。テレビを大事に大事にしていきまふ。(あれは私達にくれお約束では……。) 訪問したボウと話しかけおがま。あつという間にもう夕方。おぼあちゃんの目に涙がホロリ。「又、会いに来たね……」後ろ髪を引かれおねは、ボランティアは帰るのよ。みんなが活動を終えて帰るのよ。おねは、お菓子やら、時にはお酒やら、洋服やら、様々なおしゃべりを持ってきて、おねは今日1日のミーティング。おぼあちゃん真剣に聞いていよように見せかけて、実は寝てしまったりする。みんな みんなを繰り返し1日か過ぎ、1週間か過ぎ、1ヶ月か過ぎ……。もう今年も終りに近づいてしまいました。もうあの運命の日から7年になります。日に日にボランティアの数は減って、被災された方々からの心の叫びは今もなお続いていくのよ。おねはみんなの思いを胸にボランティアのみんなの夜は更けていくのよ。







木村 知樹 (33歳) 鳳教会牧師 幼稚園園長

・トレードマークはゴムソウリ。鳳野を211E時とラッシュアワーの時の叶巻をほく。お酒が好き。料理にこだわりを園長先生。活動が終ると「明日は子どもが待っている！」と書いてから最終電車まで赤い顔をして帰ります。〈土曜〉活動=水



青木 哲生 (60歳)

・バイタリティーあふれる。元気いっほいおにいさん(?)。村上さんとはいつも別々の電車に乗るが何かになせか五分違いくらいで来るので。もしかして……。-見. 恐ろしくおもしろい オマケやさしい おにいさん(?) だ。(京都) 活動=金



村上 宏 (54歳)

・真白な髪をかきあげながら。いつも冗談を飛ばし、解かしたて来ず。牧師の仕事もいそがしいのに 毎週元気に活動をしていく。得意な料理は「やきうどん」。やさしい牧師さん。と仮設の人に言われています。(京都) 活動=金



三上 直也 (22歳) 神戸 流通大学 学生

・将来の事を一生懸命(?) 考えながらボランティアに頑張る(!?) 女子青年(?????) ちよっと照木屋に22歳。最近 車をもおしく楽しんでるらしく。来る時はいつもニヤニヤしています。このお 幸せ者か……。〈芦屋〉活動=不定期



谷岡 孝子 (?) 病院ボランティアコーディネーター

・娘さんは二人共看護師さん。息子さんも、妹さんも医療従事者のあつな家族。いろいろいそがしい中折り合いをつけて活動をして来てくれます。支援の会現地ボランティアの体調を心配して気を付けている。うんありがた!! 〈京都〉活動=不定期



大谷 倫子 (21歳) 関西学院大学 学生

・色, 好みではNO1! 支援の会の現地ボランティアの男子達の人気をひらきいめ。Bun!! かんい〜い 彼氏と仲良く手を握っているところを おんほに目撃! されています。(神戸) 活動=不定期



一北 恒夫 (28歳) 専業主夫

・漢地区ボランティアセンターよりハンティング! 貴重な現地(地元)のボランティア。支援の会のホ-7。現在失業中。「今日のごはんは何にしようかな……」と書いて帰ってこられます。(神戸) 活動=不定期



岸田 美雪 (22歳) 病院の看護助手

・ロックバンド「ヒトウエイ」の山口洋さん大好き。今日も病院中を歌いながら走りまわっていることでしょうか。夕方仕事の終了後。入三谷介助等。活動に参加してくださいます。介護福祉士をめざす。おにこ反して 本当はおめめの子。(神戸) 活動=不定期



中尾 夕子 (25歳) 看護師

・働きたから学校に行っています。そのあつ間はボランティア。ほろ〜い人でしょう! 中垣NHSとはちよと違い(?) おとほしとつて「やっ……。岸田さんと同じ病院と一緒に働いています。(武庫川) 活動=不定期



上田 啓悟 (42歳) 被災障害者の人 松本通教会牧師

・彼の行く所嵐が吹きおろす。よっほら、いっほいほいほいも電車乗椅子がいろいろとろへいっほい 突撃……。いっほい顔や手足にはほろ〜の傷やあつが……。最近20歳2 飲み屋の前の車にドカッ! 被災者多数。(神戸) 活動=不定期



マスター (23歳) 居酒屋「伏見」経営主 〈神戸〉

・ボランティアのボランティアをしてるだけのことでは存在。(木村知樹に会いながら) とほも23には見んほいおれ仕事が終わると波車白T-Rに乗り、神戸崎をアゲアゲいっほい。最近 波車を被災障害者K.Uの乗車椅子にぶついたら……。  
いっほい



被災「障害」児・者

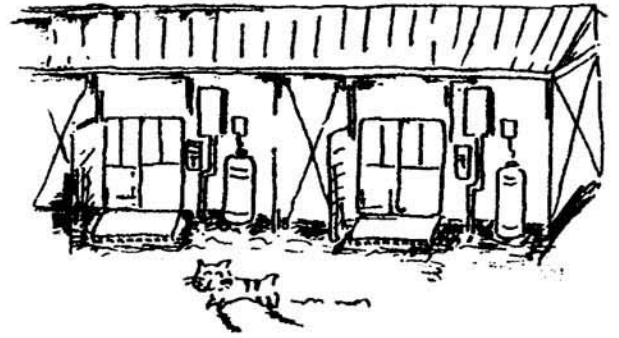
たより

# 支援の会 No.6

1996.3.15

被災「障害」児・者支援の会  
京都事務局 ☎075-612-036  
現地事務局 ☎078-856-070

あの震災から、もうすぐ2度目の春をむかえようとしています。  
被災「障害」児・者支援の会「たより」も第6号の発行となりました。支援の会には、現在でも多くの方々から、御献金をいただいております。



皆様のあたたかい御協力に、改めて御礼申し上げます。

## — 今後の活動について —

支援の会は、神戸市灘・東灘区を活動範囲とした現地事務局、京都への一時避難、西宮の作業所へのボランティア派遣、京都事務本部を拠点に活動を続けてきました。特に神戸の現地での活動は、昨年3月に「とにかくもう一年間、支援を続けさせてもらおう」と決め、毎週月曜から金曜までの活動日に、訪問・ガイドヘルプ（「障害」を持った被災者が出掛けられる際、目的地まで同行・送迎して援助します）・入浴などを、延べおよそ三千名のボランティアが行ってきました。また京都へ一時避難として、月に一回2泊3日程度でこられる方にも一緒に宿泊するボランティアをコーディネートしてきました。このなかから、被災地の仮設住宅で、「障害」をもつ人やお年寄りの方がかかえる問題に直面し、またそれらを援助すべく様々な機関と連絡を取り合うネットワークもできつつあります。

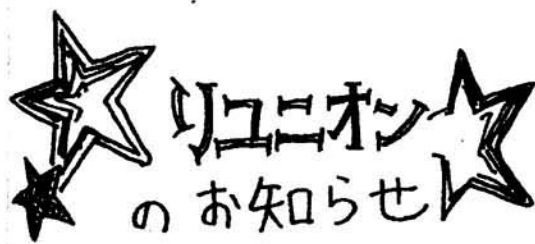
私たちは、とにかく今年の3月までを区切りにして、活動を続けてきました。その中で「私たちは京都からの支援グループであって、できる事なら被災地の中で問題を解決できるほうが望ましい」という思いがありました。そして幸いにも現地活動については、日本キリスト教団兵庫教区各種伝道委員会がボランティア組織づくりを呼び掛けてくださり、支援の会の活動の流れをくんで「障害」をもつ人の生活支援を始めたいとってくださいました。しかし2月の時点で「できれば4月から支援活動を継承したいと考えている

が、その専従になってもらう人が見つからない現状である。仮に専従が見つかってボランティアも十分に見つかる見通しが無いので、今支援の会で働いておられる人達にも協力をお願いしたい。引き継ぐ時期についても4月からと決めるのではなく、もう少し猶予期間も欲しい。しかし、出来る限り早く体制を整えたいと考えている。」とのことでした。また京都での一時避難のニーズも引き続きあります。そこで支援の会では、2月21日に事務局会議をもち、「4月以降は活動の規模を縮小して一定期間（おおむね半年）現地での支援を続ける」という方針をもたせていただきました。これまでは現地専従者を2名の体制でボランティアのコーディネート及び関係機関との連携を行ってきましたが、従来通り今後も維持すると、新たに組織される支援活動が開始されて一本立ちしていくのに支障を来す恐れがある。しかし一方で最低1名は専従者を残して、必要な引継ぎをすべきであるという判断のためであります。

そしてもう一点。誠に不幸ながら、1月29日に支援の会として送迎活動中に、その利用者2名と私達メンバー1名が、交通事故に遭ってしまい、長期入院や療養が必要となりました。損害賠償などについては保険会社を通じて解決するように目下進行中ですが、これらの人の生活環境が一定の回復をするまで、支援の会としては責任をもって見守りたいと考えています。

以上、今後も引き続き支援の会を続けるに至った経過を皆様にご報告いたします。これらの課題が解決したときが、本当に支援の会の役目を終えるときだと思います。これまでご理解・ご協力いただきました方に感謝して。

被災「障害」児・者支援の会 事務局



## 〈会計報告〉

### 〈収入の部〉

街頭募金合計	1,544,305円
その他の募金合計	16,309,080円
	<u>17,853,385円</u>

### 〈支出の部〉

物資支援	430,818円
団体支援	1,240,000円
人件費	1,440,000円
事務・交通・通信・活動費	8,923,349円
	<u>12,034,167円</u>
現在高（3月8日）	<u>¥5,819,218円</u>

① 3/23(土) pm 7:00~

② 京都・向島・愛隣館研修センター

③ 1人 2,000円

- ・遠方の方は交通費、相談して下さい。
- ・できるだけたくさんご参加下さい。
- もし当日、都合の悪い人も、久々にお目にかかりたいですよ。

## 支援の会たより No.7



## 報告

雨の季節を迎えましたが、皆様方にはお元気でお過ごしのこと  
と思います。支援の会の活動も2年目に入り、新たな段階を迎え  
ようとしています。私たちの活動は96年3月末をめどに展開し  
てきましたが、被災地での厳しい状況を直に感じるなかで、このまま現地における  
支援活動を終わることはできないと考え続けていました。

そのような思いのなか、日本キリスト教団兵庫教区各種伝道委員会が呼びかけて  
下さり、「支援の会兵庫」という新しい支援グループが作られました。この「支援  
の会兵庫」は私たちが望んでいました「地元の人を中心となって被災地の地域にお  
ける問題を考える」といった理想的に近づき、支援の会のこれまでの活動の流れに  
沿った「障害児・者および高齢者の生活支援」を現在、引き継いで頂いています。  
そのため、京都を母体とした支援の会の現地支援活動も5月末日をもって一応のピ  
リオドを打つことにしました。ここまで活動を継続することができましたのも、多  
くの皆様のご支援、ご協力によるものだ感謝致します。今後は「支援の会兵庫」  
に対してバックアップしていきたいと思っておりますので、これまでと変わらずご理解、  
ご協力を宜しくお願い致します。

## 被災「障害」児・者支援の会兵庫

<代表> 望月 修治 <担当者> 佐々木 邦子

水田 明子

活動日 : 月曜日～金曜日 浜崎 久美子

活動時間 : 基本的に9:00～16:30

事務局 : 神戸市東灘区御影中町2丁目3番23号

日本キリスト教団兵庫教区クリスチャンセンター内

TEL/FAX: 078-856-0700 携帯電話: 030-70-29739

【支援募金の振込先】 <郵便振替> 口座番号: 01100-5-88554

加入者名: 被災「障害」児・者支援の会兵庫

<銀行振込> さくら銀行阪急御影出張所 口座番号: 普通口座 3035487

口座名: 被災「障害」児・者支援の会 代表者 望月 修治





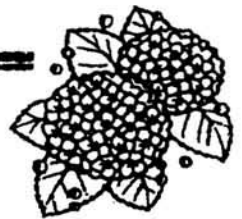
## ===== 現地より =====

3月半ば頃から、新しい『支援の会兵庫』と一緒に神戸での支援活動をしてきました。現地支援活動を何とか地元の人達につなげたいといった思いがようやく形になり始めました。『支援の会兵庫』は、新しいコーディネーター3人を先頭に、地元のボランティアも少しずつ集まってきています。そして5月より活動の全般を『支援の会兵庫』に引き継いで頂きました。3人のコーディネーターは、地元の人で曜日ごとに担当が決まっています。現地で活動することができるこれまでのボランティアの人達も『支援の会兵庫』に移り支援活動を継続してくださっています。

現在も入浴を希望される人や、福祉事務所、病院への付き添いを希望される人がたくさんおられます。また、仮設住宅を訪問するなかで、様々な相談を持ちよられる人も後をたちません。一方で、避難所から仮設住宅へと苦しい生活を強いられてきたなか、少しずつ仮設住宅から出られるようになった人もおられます。新しく家を建てられたり、公営住宅に当選した人が私たちの関係者の中からも出てきています。しかし、未だに自分の荷物を整理できずにいる人、また自分の希望する仮設がなくテント生活を余儀なくされている人もおられます。とくに私たちが関わっている障害児・者、高齢者にとっては震災前の生活以上に厳しい問題が山積みされています。仮設住宅から出たくとも出られない人が本当にたくさんおられます。

これらの様々な問題を被災地における地域の問題として考え、少しでも何らかの形で支援できればと思っています。

## ===== 原稿募集のお願い =====



支援の会の結成以来、本当に多くの募金、人材に恵まれてこの支援活動を継続してこれました。私たちはこの支援活動のこれまでの経過を報告書として今年度中にまとめたいと考えています。

支援活動の報告に関する原稿だけでなく、ご協力して下さった多くの人達によるボランティア活動中の様々な出来事やエピソード、支援活動について感じることから今後の課題などの原稿も募集致します。ぜひ、皆様のお力をお貸しください。

字数：約1000字以内（一言でも結構です）

締切：96年7月末（京都事務局まで郵送でお願いいたします）

〒612 京都市伏見区銀座1丁目360めぐみホーム内

被災「障害」児・者支援の会編集委員会

お問い合わせ：☎075-601-0894（矢崎まで）

報告書内で皆様とお会いできるのを楽しみにしています。

[ 資料28-30 省略 ]